

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	2705	学校名	大垣工業高等学校（定時制）
------	------	-----	---------------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	生徒の多様性を尊重し、生徒の学びを保障する定時制工業高校として誰一人取り残さないきめ細かな教育活動を通してものづくりによって地域、社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す学校
------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

学校教育目標 (教育方針)	心豊かな人間性と、創造性を兼ね備えた実践的な産業人の育成を図る。
------------------	----------------------------------

3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【G.P】	<ul style="list-style-type: none"> 普通教科の基礎学力と工業科目に関する専門的な知識と技能を身に付け、主体的に課題解決に取り組むことができる生徒 相手を思いやる謙虚な心と望ましい人間関係を構築できる力を持ち、社会のルールに基づいて、主体的に判断して行動することができる生徒 望ましい勤労観や職業観を身に付け、技術とコミュニケーション能力のある産業人として地域社会に貢献できる生徒
	生徒をどう育てるか 【C.P】	<ul style="list-style-type: none"> I C T機器を活用した分かりやすい授業で基礎基本の定着を図り、検定取得に向けて個別指導を行うなど、学習意欲を高めるための個別最適な学びを推進 授業や生徒会活動等のなかで生徒が協働して学ぶ場面を意図的に設定し、課題解決に向けた探究的な学びを推進 ものづくり教育、就労体験等、地域人材による講演会等とおしてキャリア教育及び就職支援を推進し、生徒の進路実現能力を育成
	どんな生徒を待っているか 【A.P】	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりやI T技術に興味があり、将来、産業人として地域の発展に貢献したいと考えている意欲のある生徒 ルールやマナーを守り、卒業をめざして仲間と楽しい学校生活をおくり、信頼される大人になるために人間的に成長したいと考えている生徒 進路目標達成のため、積極的に資格や検定の取得を目指し、学力や技術、コミュニケーション能力を身に付けたいと考えている生徒

学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びに対応する指導や支援体制 基礎学力を定着、個々の生徒に対するきめ細かい指導、外国籍生徒に対する日本語教育等の個別最適な学びに対応する指導や支援体制の推進及びこれらの生徒に対する、新学習指導要領で定義された「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の学力の定着。 進路実現のための、誠実な心の育成と生徒への組織による支援体制の構築 職員の共通理解のもと全職員が適時に生徒への心の育成指導を行い、進路実現にむけた生徒とのコミュニケーションを大切に支援体制の確立。
----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	産業人として必要となる基礎学力の定着と技術の向上を図り、自ら課題に取り組む学習態度の育成
	進路指導	ものづくり教育を通して、地域に貢献できる産業人としての資質を育成
	生徒指導	自他の生命を尊重し、個人や集団の健康と安全に留意する態度を育成
	その他	地域と協力し「ふるさと岐阜」支える人材育成

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	教材や指導内容の精選を図るとともに、少人数授業やI C T活用等の工夫を図り、わかる授業、できる授業の実践を推進	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価の結果 欠席・遅刻・早退者数の比較と生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の学力定着に重点を置き、指導内容を精選した授業を実施した。 生徒が理解しやすい授業を目指し、ユニバーサルデザインの視点に立った視覚的にわかりやすい授業の実施に努めた。また、校内研修や研究授業を通して授業改善に努めた。 外国人児童生徒適応指導員の対応で、授業を円滑に進めた。 欠席の多い生徒、理解度の低い生徒に対して積極的に学び直しと補充の授業を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 真面目な態度で授業に取り組む生徒が増えてきている。怠学により欠席する生徒も減ってきている。 ▲落ち着いた授業がなされているが、基礎学力の定着に結びつかないことも多い。さらに、生徒個々に応じた、個別最適な学びに対応する指導の研修が必要である。 ▲ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりから、授業のやりづらさや課題を授業改善につなげる研修の継続が必要である。 	B
	個々の生徒の状況を把握し、生徒個々に応じた個別最適な学びに対応する指導や支援体制の推進	施策Ⅳ-23					
	生徒の自主的な学習を支援し、既習事項の定着を図るため、定期考査前に個別指導の期間を設けるなど学び直しを推進	施策Ⅳ-23					
進路指導	ものづくり教育を通して企業から求められる産業人として必要な技術力、コミュニケーション能力を育成	施策Ⅱ-13	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価の結果 定期考査の前年度成績結果との比 取得した資格の種類と人数 キャリアガイダンスや面接指導に参加した生徒数 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを活用し、自己の性格などから職業に対する適性を見出させ、本校の学習と自己の将来との繋がりに関心を持たせる取り組みを行った。 外部講師を活用し、2年生に主権者教育、4年生には就職支援セミナーを実施した。 1年生では、地域産業を支える企業見学や体験型企業見学を実施した。 2年生3年生において、地元企業（製造業2社、建設業2社）見学を実施し、職業選択のミスマッチを無くす取り組みを行った。 就職試験前には、試験対策・面接指導を丁寧に行い、就職希望者全員が内定した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地元産業見学を通して、1年生では大垣の伝統産業と地域の強みを理解し、2・3年生では具体的な進路を考える機会となった。 2年生の主権者教育では、社会的自立を意識し、主体的に生きる力を身に付けた。 4年生の就職支援セミナーでは、就職に必要な知識を身に付けた。 ▲キャリア教育を通して、就職準備の重要性を理解させ、早期の就職活動開始を促し、万全な状態で採用試験に臨ませることが必要である。 ▲就職試験で基礎学力が求められる場合があるため、計画的な基礎学力定着に向けた取組が必要である。 	B
	企業から求められる産業人として必要な、基本的生活習慣や規範意識の育成	施策Ⅱ-14					
	就労体験等を活用して、多様な他者と協働することの重要性を理解させ、主体的に取り組む姿勢、望ましい勤労観と自己実現能力を育成し、キャリア教育を推進する。	施策Ⅱ-13					
生徒指導	健康相談や教育相談等を随時実施し、保護者との連携を密に図り、生徒の心身の健康教育を推進	施策Ⅰ-7	<ul style="list-style-type: none"> 相談件数と生徒・保護者の意見 職員研修実施後の報告書等 給食の摂食率と健康診断結果の比較 	<ul style="list-style-type: none"> 週2回の職員連絡会を実施し、生徒に関する情報を全職員で共有した。 年4回の教育相談週間を設け、職員間で連携して生徒対応を行った。 研修主事を中心に、校内研修を行い、特別支援に関する理解を深めた。 生徒一人一人の変化を見逃さないよう、日常的に丁寧な対応を心掛けた。 栄養士を中心に、健康な食育を意識した献立作成や、食材発注、衛生・マナー指導を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の様子や変化に気づけるように、見逃さない丁寧な対応を常日頃から心掛けることで、生徒の「学校での自分の居場所づくり」と「自己存在感や自己有用感を高める」ことにつながっている。 ▲卒業後、社会で活躍できる人材を育成するために、「生徒が、自らの力で困難を乗り越え未来を切り拓いていく問題解決能力」の育成方法の研修が必要である。 	B
	職員研修により、全ての職員が個々に特別支援に関する知識を向上させ、困り感の強い生徒に組織による支援体制を構築	施策Ⅳ-26					
	5 S活動を通して、ルールを守る大切さを学ばせ、安全・安心な学習環境を構築	施策Ⅲ-19					
	給食活動を通して食育を充実させ、積極的な健康づくりを推進	施策Ⅲ-17					
その他	公開授業を通して、家庭や地域の方と連携した生徒の育成	施策Ⅰ-7	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価の結果 生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果 	<ul style="list-style-type: none"> 創立百周年記念式典や公開授業（授業参観・生徒体験発表会）の実施を通して、保護者等、学校外部の方々へ生徒が活躍する姿を見ていただいた。 親子ものづくり教室を開催し、地域の親子が多数参加した。 地域産業を支える企業の見学や体験型企業見学を通して、ふるさと教育を実施した。 コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを磨くための職員研修や全クラス統一LHRを実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観とおして、定時制教育に対して理解を深めていただいた。 親子ものづくり教室とおして、本校生徒の姿を知っていただいた。 地域産業を支える企業の見学は概ね好評であった。引き続き、今後も継続し、ふるさと教育を充実させていきたい。 ▲コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを磨く研修は、生徒、職員共に継続が必要である。 	B
	親子ものづくり教室等の地域貢献を通して、ふるさと岐阜への愛着を育む	施策Ⅰ-4					
	ふるさと岐阜の産業を支える人材育成のために、将来を見据えた学習内容や学習環境の改善を推進	施策Ⅳ-20					

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年2月13日 学校関係者評価 実施日：令和8年2月13日

◎全般的に落ち着いてきているので、更なる向上を目指して、授業規律についての指導に力を入れていく。
 ◎外国にルーツのある生徒が増えてきているため、日本語指導の充実に一層努めていく。
 ◎就職試験に備えるため、計画的な基礎学力定着指導を実施する。
 ◎今後も継続的に保護者と本人に対して丁寧な説明を行い、相手が納得のいく指導を心掛ける。
 ◎コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを磨く研修や地域産業を支える企業の見学、学校の様子や情報を地域に発信していく活動を継続していく。

○定時制の学びを拝見したが、きめ細かな指導が生徒に寄り添って実践されていたので続けてほしい。
 ○言いたいことを言えない子供たちが増えていっているように感じる。希望が持てる社会をつくるためにも言い合える関係になりたい。
 ○コミュニケーション不足に危機感を感じる。子供たちが話しやすい環境をつくるのが大切だと思う。
 ○ソーシャルコミュニケーションスキルを磨くことなど教員のアップデートが必要だと思う。
 ○普通科志向が強いため工業高校の魅力発信はなるべく早い段階(中学1,2年)から始めるとよいと思う。